

平成 30 年度第 2 回 あま市地域公共交通会議録要旨

平成 30 年 12 月 17 日（月）

午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで

美和総合福祉センターすみれの里 2 階 集会室

1 出席者等

出席者等（委員） 14 名
（事務局） 7 名
（傍聴者） 1 名

2 議題

- (1) 利用状況について
- (2) あま市巡回バスのあり方を定める指標の決定について
- (3) あま市巡回バス試行運行に関するアンケート（案）について

【主な質疑等】

(1) 利用状況について

(座長) 北部巡回ルートと南部巡回ルートでは 1 便の運行が左回りと右回りで異なっている。ともに 1 便の利用者が多いが何か把握していることはあるか。

(事務局) 路線の見直しを行う際に、旧路線を利用していた方の利便性を損なわないよう検討した結果、北部巡回ルートと南部巡回ルートでは 1 便の運行が左回りと右回りで異なった。

北部巡回ルートは、木田駅へ向かう利用者が多いことから各停留所を通過し、目的地である木田駅に到着する左回りを 1 便とした。

南部巡回ルートは、七宝総合福祉センターや木田駅へ向かう利用者が多いため、各停留所を経由し木田駅へ向かうとともに、最終的に七宝総合福祉センターへ到着する右回りを 1 便とした。両路線とも旧路線の利用者の利便性を損なわなかったことで、このような結果が得られた。

(座長) 降車の利用者が多い停留所へ多くの停留所を経由する路線とし、狙い通りの結果が得られている。

月別や路線別の利用者数は折れ線グラフを利用すると、経年的な変化や月別の利用など確認しやすい。

- (委員) 南部巡回ルートの名鉄バスの停留所とあま市巡回バスの停留所が併設されている箇所の乗り継ぎ状況は分析できないか。
乗り継ぎ拠点となっている七宝焼アートヴィレッジは全路線で利用者が多いことから、パークアンドライドの様な利用も行われているのか分析をすると利用者の移動も見えてくる。
小橋方の停留所は非常に利用者多いが、右回りの乗車と左回りの降車の利用状況を分析すると、利用者の移動が見えてくる。東部巡回ルートは、あま市民病院もバスを運行していることから利用が伸びないが、利用促進は行っていただきたい。
- (事務局) 乗り継ぎについて、名鉄バスと協議した。乗り継ぎの把握は難しいが、曜日別の乗降者数を分析しながら利用状況の把握に努める。
七宝焼アートヴィレッジから、甚目寺駅や木田駅の停留所で降車する方が多いため、七宝焼アートヴィレッジに車を止め、巡回バスを利用する方も居るのではないか。
小橋方の停留所は、木田駅や名鉄バスの停留所まで距離があることから、巡回バスを利用している。
あま市民病院は、市の施策でバスの運行を実施している。また、巡回バスは乗車時間が長いことや、受付時間の早い時間帯に病院へ到着することが出来ないことから、診察のために巡回バスを利用する方は少ない。
- (座長) 名鉄バス下田の停留所は、右回りの降車の利用者が多いため、名鉄バスに乗り継いでいると考えられる。
- (事務局) 名鉄バス下田の停留所周辺に、目的地となる場所は特に無いことから、乗り継ぎでの利用が多いのではないか。
- (座長) 名鉄バス下田だけ特徴的な結果となっているため、乗り継ぎでの利用だと思う。
小橋方の停留所は右回りに乗車し目的地まで行き、左回りに乗車し帰ってくると思うが、左回りと右回りで利用者数に差異が大きいのはなぜか。
- (事務局) 小橋方の停留所に関わらず、各停留所で乗降者数に差異があるため、検証が必要。
- (座長) 行きと帰りであま市巡回バスが利用出来ていないため、改善していく必要がある。具体的にはダイヤの見直しが必要である。

(2) あま市巡回バスのあり方を定める指標の決定について

(委員) 指標にある「平均利用者数」は、延べ人数か。

(事務局) 1便あたりの延べ利用者数である。

(委員) 延べ人数では、市民何人が利用しているのか分からない。利用者が少なければ公共性は無くなる。ただ、公共性が無いから巡回バスが不要でなく、他の手段を検討する必要がある。

「1日当りの利用者数の推移」が伸びないのに事業に継続性を持たせる必要があるのか。「一人当りの輸送費用」が3,000円以上かかる状況で事業を継続していくのは、市民目線では費用が高いと感じるため、利用者数を増やす仕掛けが必要である。

(事務局) 指標項目の「利用率」で実人数は把握出来る。

「1日当りの利用者数の推移」において毎月利用者数が増加していけば市民に必要とされていると考えることが出来る。利用者数が毎月増加となるよう努力する必要がある、少しでも利用者数を増やせるような施策を行っていききたい。

(委員) 指標項目は、事業効果を考察、検証することが重要。

例えばアンケートで「認知度」を図っていくと思うが、「認知度」でどのような事業効果を検証しようとするのが重要となる。項目ごとに検証、考察を行い事業の効果を図ることが重要である。

(座長) チェック指標があれば、結果から何を改善すべきか想定できる。アンケートはサンプリング調査となり、信頼度として幅があるかどうか。

(事務局) 各項目の事業効果を定義し、検証、考察を行っていく。今後、各項目の定義や検証効果について明記していききたい。

アンケートについては、回答率を元に計算すると、統計学上の信頼度は達していると判断出来るため、アンケート結果も指標の1項目としていききたい。

(委員) あま市巡回バスは、高齢者の為に行っている事業であれば、指標項目の中に「収支率」を入れる必要はないのではないかと。

福祉施設や七宝焼アートヴィレッジに来る方のうち、あま市巡回バスの利用者がどの程度かを把握するのも必要だと思う。交通部門と福祉部門等が連携する必要がある。

(事務局) 指標項目を横並びで評価するのではなく、どの項目を重点すべきかを協議したいと考えている。また、事業を継続していく上で「収支率」等も考慮していく。

福祉部門と連携しながら、あま市巡回バスの利用者をより多く運

べるような場所や路線等を検討していく。

(座 長) 目的に照らし合わせ、本当に移動に困っている高齢者の方々に多く利用していただければ良い。

主なバスの利用が、より高齢となりバスに乗れなくなり利用者が減ってきている。一方、ご高齢となってきた方々は、最後まで車に乗っているためバスの利用に移っていない。利用が増えている自治体は、早めに運転免許証を返納し、コミュニティバスを利用している。

目的を明確にし、何を計るべきかを明確にする必要がある。「無料乗車券発行枚数」が毎年どれくらい増えているか注視する必要がある。「無料乗車券発行枚数」さえも減ってしまうと、上手くターゲットを捉えていないのか、又は必要な交通手段を提供できていないということになる。

指標項目は、評価した後に考察して、市として対策が可能なものとするべきである。「福祉有償運送利用者数」や「移動援助サービス事業」は確認項目が良い。

「運転免許自主返納者数」を確認項目として、新たに追加すると良い。

(事務局) 運転免許自主返納者数については、所管の警察署に確認する。

(3) あま市巡回バス試行運行に関するアンケート（案）について

(委員) 問9の設問内容は、ここまで詳細に表記しなければならないのか。

回答者へあまり良い印象を与えないため、少し表現を改めてはどうか。また、利用者数や月の収入まで表記すべきか。

(事務局) 回答者が回答しやすい様に利用状況等について身近な数字に置き換えて表記した。どの程度まで記載し、どう表記すべきかご意見いただきたい。

(委員) 多くの方が利用するようであればバスは本当に有効な手段であり、経費も安く済むと思う。ただし、そうでない場合は違う手法も検討しなければならない。

アンケートの結果は、巡回バスに限っての質問のため、結果によっては違う手法を考えれば良い。

(委員) 巡回バスの目的は移動に困っている高齢者等の日常生活を支えることとしており、回答者がそれぞれの立場で発言するのは違うと思う。若い回答者が問9の設問を見たときに、巡回バスは必要ないと感じてしまう。

2年3年バスを運行してやっと認知されてきた。年をとって運転免許証を返納するようになると考えも変わってくるので、その辺も勘案していただきたい。

(委員) 市が公共交通施策を行うのが普通だと思う。

公共交通施策を行うにあたって、巡回バスの運行は有効だと思うられますかという聞き方が良いと思う。

(座長) 平成28年度のアンケートで、同様の設問に対する市民の理解が50.6%であり、これは他の自治体に比べると非常に低い。設問の仕方が悪かったと考えられることから、問9の表記は改める必要がある。

公共交通に対して市の関与をどうすべきか、どうあるべきか、といった表記の方が良い。

利用者や収入まで表記すべきかという点は、事実は表記しても良いが、表現は見直す必要がある。ただし、基本的にはこの形で良い。

(委員) 問12は回答がバラつくため、再考した方が良い。

アンケート自体があま市巡回バスの情報を市民の方に知っていただくツールとなるため、アンケートの最初にあま市巡回バスの目的を表記していただくと良い。費用の表記は、市民の方に認識して

いただくために必要。

(座 長) アンケートの回答率とバスの利用率から勘案すると回答者のうちバスを利用している方は、30 人程度と予想される。そのため、利用者の方々に聞く設問の問 4、問 5、問 6 は、統計的に有効なデータを得られない可能性が高い。

問 4、問 5、問 6 は、利用者を対象としたアンケートを実施し、意見を捉えるべき。

アンケートは、回答者のほとんどが巡回バスを利用されていない方であることを前提とする必要がある。その上で、問 9 の施策に対する考えは設問すべきである。また、潜在需要を捉えておくのも必要である。

(委 員) あま市民病院は無料のバスを運行しているため、あま市巡回バスを利用してあま市民病院へ移動する方が圧倒的に少ない。あま市民病院のバスが病院を利用する方の需要は満たしているため、あま市巡回バスとあま市民病院バスの住み分けをしておかなければ、アンケートの回答が混合する可能性がある。

今回のアンケートは、あま市巡回バスのことを聞いているという形で整理する必要がある。

(座 長) 利用者アンケートは実施しているか。

(事務局) バスの中に利用者アンケートを設置し行っている。

(座 長) アンケートの問 4、問 5、問 6 のような設問はあるか。

(事務局) 問 4、問 5、問 6 のような設問はない。

(座 長) アンケートの問 4、問 5、問 6 の設問は利用者の方々に対して実施した方が良い。あるいは同じアンケートを利用者の方々に配布するなどの方法など検討してもらいたい。

(委 員) 表紙の赤字で記載している箇所が重要。太文字にするなど強調し、アンケートに回答してよかったと思われると回収率は上がる。

回答期限の 2 週間は長いので、少し期間を短くした方が良い。

運賃に関する設問の問 13 は、無料という意見が多く占めることが予想されるため、設問として設ける必要は無い。

(事務局) 表紙の赤字で記載している項目は、太字等にして目につくように修正する。

回答期限は、本市が行っているアンケートが 2 週間の回答期限を設けていることから、本アンケートも 2 週間という期限を設けたい。

問 13 は、試行運行後の巡回バスの在り方に関する設問となって

おり、今回のアンケートの設問から除いても良いと考えている。

(座 長) アンケート結果を基に料金体系の見直す意向がないのであれば、問 13 は設問から削った方が良い。回答者のほとんどが巡回バスを利用していない方となるため、意見をどこまで反映すべきなのか検討が必要。

問 9 の費用負担を増やす、減らすという設問は、今後の施策にも関係してくる。

問 12 は、現在の運行曜日ではあま市巡回バスを利用出来ていない方の意見を聴くチャンスとなる。地区や利用者の事情によって曜日がバラつく可能性もあるが、ある曜日に回答が集中し、現在その曜日が運行日ではないことが分かる可能性もあり、それは一つの良い結果となる。ただ、設問はもっとシンプルにする方が良い。

(委 員) 問 2 の設問はアンケート対象者の 3,000 人に対して宣伝が出来る部分だと思うため、表記を内容ではなくて説明として、説明を少し追記することで、回答者にアンケートしながら理解してもらう効果を狙うと良い。

(座 長) とても良いご提案をいただいた。3,000 部あれば巡回バスマップを同封するのも良い。

意見の言いっぱなしとなるが良いか。本日設問の項目や内容を決めた方が良いか。

(事務局) 本会議で協議を整えたのち、アンケートを実施する予定をしていたが、非常に多くのご意見いただいたため、今一度ご意見を反映させて精査したい。

3 その他

(委員) タクシー事業者がどうすれば地域の交通に貢献できるかを検討する取り組みを始めている。地域の課題やニーズを取りまとめ、タクシー事業者から提案できる仕組みを作る予定である。全国で実施している乗り合いタクシーの事例も参考にいただければと思う。

○ 次回の開催は2月の予定。後日連絡する。(各委員了承。)